

3 諏訪地域

<地域の環境特性>

- ・ 東に八ヶ岳中信高原国定公園に属する山々が連なり、南には南アルプスを望み、諏訪湖を取り巻く地域と八ヶ岳の山麓に広がる地域から成り立っています。
- ・ 諏訪湖周地域は、有数の工業地域として都市化が進展しましたが、このため産業排水や生活排水の影響でアオコ*が発生するなど諏訪湖の汚染が進みました。

浄化対策に取り組んだ結果、湖沼の汚濁状況の指標である全リン*については、平成18年度以降環境基準が達成され、COD・全窒素*についても改善傾向が見られるなど、諏訪湖の水質は中長期的には改善の方向にあります。また一方で、水草のヒシの大量繁茂や湖底の貧酸素の拡大といった新たな課題が生じています。

- ・ 広大な裾野が広がる八ヶ岳山麓地域は、夏期の冷涼な気象条件を活かした農業が営まれています。昭和30年代からは蓼科高原を中心に別荘地開発などが進みました。現在では白樺湖から富士見高原を経て山梨県に至る一大リゾート地帯となっており、自然との均衡がとれた開発が求められています。
- ・ 霧ヶ峰高原は中世からの採草や放牧などによって広大な半自然草原*が形成され、そこに八島ヶ原湿原をはじめとする高層湿原と樹叢そうが点在する貴重な自然環境や景観が形成されました。しかし、昭和30年代半ばを境として本格的な採草や放牧などの農業利用がされなくなり、草原の森林化や湿原の乾燥化、ニホンジカによる高山植物等の被害といった大きな変化が進んでいます。

<実施施策>

(1) 「人と生き物が共存する諏訪湖」をめざして

- ・ 諏訪湖水質保全計画に基づき、工場・事業場等の排出源対策や生活排水対策に加え、市街地・農地・山林からの流出水対策、水草（ヒシ）の除去など総合的な対策を実施することにより、諏訪湖の浄化対策を推進します。
- ・ 諏訪湖が抱える様々な課題を解決し地域を活性化するため、住民・事業者・行政などからなる諏訪湖環境改善行動会議を設立し、行政と民間が連携を強め協働して取り組みます。



諏訪湖のヒシ除去活動

- ・ 諏訪湖の水辺整備に関するマスタープランなどに基づき、湖畔の整備を行い、自然豊かな水辺の再生と多様な生物の生息環境の向上に努めます。

- ・ 水辺観察会等の環境学習や水辺に親しむ機会の提供などによる上流地域としての意識の向上や、住民との協働による環境美化等を進めます。
- ・ 諏訪湖に流入する各河川において、アレチウリ等外来種の駆除など、住民と協力し生態系の保全に努めます。



諏訪湖クリーンフェスティバル
(親子ミジンコ観察会)

(2) 変化に富んだ山岳・高原等の自然環境の保全

- ・ 霧ヶ峰の植物相などに関する調査結果に基づき「自然再生推進計画」を策定し、霧ヶ峰自然環境保全協議会が中心となって、住民・事業者・行政などが連携して、霧ヶ峰の自然を保全、再生する取組を進めます。
- ・ ニホンジカによる八ヶ岳・霧ヶ峰等における高山植物や希少種などの食害が深刻化していることから、行政と民間の協働による侵入防止柵の設置のほか、ニホンジカの捕獲等の取組を推進します。
- ・ グリーン・ツーリズムやエコツーリズムの推進などにより、旅行者等に豊かな自然を体験する機会を提供し、地域経済の活性化を図るとともに、自然保護活動への参加主体の拡大に努めます。



霧ヶ峰のニッコウキスゲ群生地を守る侵入防止柵（電気柵）



八島ヶ原湿原における侵入防止柵（金柵）

(3) 協働・連携による環境への負荷の低減

- ・ 住民・事業者・行政などが協働・連携し、地域資源を活用した自然エネルギーの普及を推進します。
- ・ 家庭の省エネ診断や地球温暖化防止活動推進員による啓発等、地球温暖化を防止するための取組を、住民・事業者・行政などが連携して進めます。
- ・ 優れた技術力を有する事業者の産業集積を活かした産学官の連携により、環境保全のための高度な技術の形成を推進します。